

# 岩手南部森林管理署遠野支署の沿革

江戸時代に南部氏が直轄支配していた森林は、明治2年の版籍奉還により国の所有森林（官林）となり、その後、所有権が不明確な山林原野も官民の所有区分をされました（官有山林原野）。官林と官有山林原野は、明治14年に農商務省山林局の所管となり、明治30年の森林法制定により「国有林」となりました。

なお、明治23年に一部を皇室財産である御料林として宮内省御料局（後の帝室林野局）に移管しています。

また、明治19年に山林局の管区機関（後の営林局）として青森大林区署が、明治21年には岩手大林区署が設置されますが、岩手大林区署は組織が安定せず、明治36年に青森大林区署に再統合されました。

## 【遠野の国有林年表】

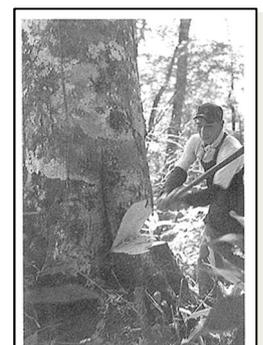
- 明治21(1888)年10月4日 農商務省山林局岩手大林区署遠野派出所が旧横田村砂場町（現新町）に開庁
- 明治25(1892)年9月19日 遠野小林区署に改称
- 大正4(1915)年 遠野小林区署新庁舎が旧遠野町本町（現六日町）に落成
- 大正13(1924)年12月 官制改正により大林区署が営林局、小林区署が営林署となり青森営林局遠野営林署となる。遠野営林署は遠野・釜石の2経営区を管轄
- 昭和4(1929)年 大出～一本櫛国有林間に森林鉄道敷設（附馬牛林道）、S10年には遠野貯木場まで。
- 昭和10(1935)年12月 遠野闊葉樹製材所を上組町に設立（現在の材木町）※森林鉄道で原木を輸送
- 昭和12(1937)年10月20日 御料林を管理する帝室林野局盛岡出張所の管轄区域を分割し遠野出張所新設
- 昭和16(1941)年3月1日 大槌営林署新設に伴い釜石経営区を分割
- 昭和22(1947)年4月1日 帝室林野局所管の御料林、内務省所管の北海道国有林を農林省所管国有林に統号（林政統一）。遠野営林署は遠野第一営林署に、帝室林野局東京支局遠野出張所は遠野第二営林署に改称
- 昭和23(1948)年1月1日 遠野第一営林署と第二営林署を統合して遠野営林署として第二営林署の庁舎を使用（本町庁舎は法務局に）9月にアイオン台風により遠野貯木場・森林鉄道壊滅
- 昭和24(1949)年6月1日 林野庁設置（農林省林野局を改組）
- 昭和32(1957)年 本内、沢内、水沢、遠野の4経営区を統合して北上川中流経営区となる。
- 昭和35(1960)年 森林鉄道（附馬牛林道）廃止（猿ヶ石川支線は37年に牛馬道に格下げ）
- 昭和51(1976)年11月29日 新庁舎落成記念式典挙行（新庁舎の竣工は11月15日）
- 昭和58(1983)年 遠野国産材まつりが始まる。
- 昭和63(1988)年5月25日 開庁100周年記念行事（記念植樹・祝賀会等）挙行
- 平成11(1999)年3月1日 国有林野事業の抜本的改革。7森林管理局98森林管理署14支署体制に。遠野営林署は東北森林管理局青森分局岩手南部森林管理署遠野支署に再編改組
- 平成13(2001)年8月1日 花巻事務所（旧花巻林署）の廃止（7/31）に伴う管轄区域の整序により、大迫担当区及び達曽部担当区を遠野支署に編入、旧湯田署横川目担当区の一部（旧和賀郡中内村の区域）を達曽部担当区に編入
- 平成16(2004)年3月31日 青森分局が廃止され東北森林管理局岩手南部森林管理署遠野支署（4/1）に
- 平成23(2011)年3月11日 東日本大震災発災。後方地域から被災地への中継基地として支援業務を実施
- 平成25(2013)年3月31日 上郷森林事務所、達曽部森林事務所を廃止（組織上の廃止）
- 平成29(2017)年3月 耐震・改装工事完了
- 平成30(2018)年10月4日 開庁130周年



昭和49年頃の東館庁舎



遠野営林署開庁100周年記念祝賀会



ブナの伐り出し作業

## ○庁舎の変遷



明治 21 年に開庁した遠野派出所の庁舎(砂場町)  
(現在の新町。自転車が配備されている。)



大正 4 年に落成した遠野小林区署庁舎(本町)  
(現在の六日町。遠野高校北側付近)



昭和 12 年に帝室林野局東京支局遠野出張所として新築された石倉町(現東館町)の庁舎。戦後は遠野営林署庁舎となり昭和 51 年に現庁舎が新築されるまで使用された。庁舎は現在よりも車道側にあった。正門左側のマツは今も青々としている。



現在の庁舎 昭和 51 年 11 月 15 日 竣工  
平成 29 年 3 月 耐震工事了

## ○森林鉄道(附馬牛軌道) 「群峯 結成 40 年記念誌 全林野遠野営林署分会(1993)」より



遠野貯木場(昭和 23 年以前の画像)



運行中の森林鉄道・上大出(昭和 31 年 6 月 25 日)



上の写真と同時期に撮影したものが



地域の足として活躍



戦後間もない写真